

会 議 録

<p>会議名 (審議会等名)</p>		<p>第9回 次世代に引き継ぐ 淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会</p>			
<p>事務局 (担当課)</p>		<p>都市計画課 電話042-769-8247(直通) 生涯学習課 電話042-769-8287(直通) 公園課 電話042-707-7022(直通)</p>			
<p>開催日時</p>		<p>令和2年1月25日(土)午前9時30分～12時00分</p>			
<p>開催場所</p>		<p>相模原市役所第2別館3階 第3委員会室</p>			
出席者	市民検討会 委員	17人(11ページのとおり)			
	有識者協 議会委員	2人(11ページのとおり)			
	その他	4人(各施設担当者)			
	事務局	13人(都市計画課長、生涯学習課長、公園課長他10人)			
	運営・検討支援 業務受託者	7人(セントラルコンサルタント株式会社)			
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数	5人
公開不可・一部 不可の場合は、 その理由					
会議次第	<p><開会あいさつ></p> <p>1 講演(これからの社会の“文化的”施設のあり方)</p> <p>2 グループワーク</p> <p>3 講評</p>				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。（ 市民検討会委員の発言、 は有識者協議会委員の発言、 は事務局の発言、 運営・検討支援業務受託者の発言 ）

1 経 過

生涯学習課長による開会を行い、さがみはら国際交流ラウンジ選出の委員交代の報告と新委員の紹介、現在の市民検討会の議論の進捗状況を踏まえて、市民検討会委員の任期を1年延長することを報告した。その後、要綱第5条第3項の規定に基づき、有識者協議会鈴木会長の進行のもと傍聴の確認を行い、有識者協議会の野口委員による講演の後、グループワークを行った。

2 議 事

(1) 野口委員による講演について

○ 講演テーマが「これからの社会の“ 文化的 ” 施設のあり方」で副題が「建築の形式がつくりだす活動について」ということで、建築の形によってどのように人の動きが変わり、周辺の環境が変化していくのかというところを聞いてほしい。これまでのグループワークによって出てきた公共施設に対するキーワードのうち、「アクセスの良さ」、「活動の視認性」、「施設同士の融合」の3つの要素に着目して説明する。例えば、「アクセスの良さ」であれば、駅から近いからアクセスが良いというのか。「活動の視認性」であれば外から見える、ガラス張りにすれば良いのか。「施設同士の融合」であれば合理性・経済性だけの話なのか。そうではなくて、建築がどういう所に建っているのか、どういう形式で、周辺環境と関係しているのかが重要である。

アクセスの良さについて、例えば、駅があって駅ビルの5階に図書館が入っているとすると、一見利便性が高く見えるが、目的がある人しか訪れない。そこに図書館があることを知らない人は、素通りしてしまうかもしれない。また、利便性が求められるコンビニの場合でも、駅ビルの5階にあったら、わざわざ行こうとは思わない。一方で、駅から多少離れていても見通しが良ければ、駅ビルにある場合と比べて不便に見えるが、気付きやすく、まちでの日常生活の延長として気軽に利用できる。これにより、視認性が高まったり、周辺環境との連続性、まちの面的な活性化などが期待できる。

例えば、渋谷では、駅に直結してものを造るというよりも、少し離れた距離の所にBunkamuraなどを造った。また、東急ハンズも同様に、わざと離して造っている。そうすることで、渋谷というまちの面的な活性化が生まれてくる。

建築の形式や周辺環境との関係が人々の活動を豊かなものにする信じているので、建築を「単なる箱」とか邪魔なもの「異物」だったり、単なる名前を付けて「記号」という風に捉えずに、公園のような一種の環境として捉えてほしい。

先ほどの3つのキーワードを実現している、もしくは実現しようとしている事例として、「ロレックス・ラーニングセンター（スイス・ローザンヌ）」や「武蔵野プレイス（東京都武蔵野市）」、「イビラプエラ公園（ブラジル・サンパウロ）」、「JUNKO FUKUTAKEホール（岡山県岡山市）」をあげる。これから話す内容は、必ずしも全てが良いということではなく、すごく極端な建築ではあるが、建築の形式によって、どのようなことが起きているのかというのが分かりやすい事例を選んだ。

「ロレックス・ラーニングセンター」は、大学の学生センターであり、図書館・食堂・学習室・会議室・ホールなどの施設同士を融合させている。平屋で内側に仕切りの壁がなく、起伏と中庭によって機能を分けることで、各機能が穏やかに繋がり、お互いの活動が良く見えて、学生だけでなく周辺の住民もなんとなく訪れる、目的がなくても過ごせる、まるで公園のような建築である。この事例は、まさに施設の融合だったり、視認性だったり、アクセスがいい。このように、離れていても行ってみたいと思うのも、アクセスの良さであると考えている。

「武蔵野プレイス」は、地上4階地下2階の多層で、丸みを帯びた小さな部屋の集合体で、居間のように気軽に過ごせてお互いの部屋が穏やかにつながり、隣の活動に興味を抱く、まるで家の延長のような建築である。周辺を囲まれるような心地のいいサイズの小さな部屋が、連続して上下にも繋がって、視認性も高い。だだっ広い所というのは過ごしづらく、広いフィールドを用意すれば自由に使えるとは言いが、校庭のど真ん中に人は行かない。ただ広い部屋を用意すれば良いという単純な話ではない。

「イビラプエラ公園」は、体育館・劇場・展示場・博物館・庭園・ジョギングコースなど、市民活動と呼ばれるようなものが全て集まっている公園である。公園の中に各施設が点在し、それらを大きく開放的な屋根でつないで、散歩するように気軽にめぐることができる。公園と施設での活動が一体となる、まるで公園の一部のような建築である。

「JUNKO FUKUTAKEホール」は、多目的ホールであるが、小さな空間が集合して1つの大きな建築を構成している。圧迫感を抱かせず、中と外が混ざり合って連続して、内部の活動が周囲から視認され、ひろがり生まれる建築である。

その他の事例としては、大学キャンパスや日本庭園というのも参考になる。

どういう形式が一番良いのかというのは、時と場合によって変わってくる。ただ重要なのは、環境との関係によって何が起きるのか、何が可能になるのか、次の世代をどう豊かにするのか、これを想像することが重要である。

建築の形というのは色々あり、配置によってガラッと変わる。これを考えるのは結構難しい話かもしれないが、予備知識がない状態で考えるというのも一つの手である。今まで思っていた、建築は一個の箱とか、そういう常識から一度意識を外したほうが面白い。何かワクワクするようなものが造れるかもしれない。記号のように置くのではなく、こういう形だったら、こういう配置だったら、こういう事が起きるのではないかという風に、ポジティブな方向で考えてほしい。例えば、日本庭園のようなとか、例えば のようなとか、皆さんの豊富な経験をもとに例えを使ったりしてやってみると面白いのではないか。

【質疑応答及び感想】

先ほどのロレックス・ラーニングセンターは、壁がないということだが、ホールなどの防音はできるのか。

ホールで音楽イベントをやるときは、簡易的に閉じられる壁を設置している。図書館は常に静かでないといけませんが、山になっている天井に吸音材があることで、想像以上に静かである。面白かったのは、下のほうのカフェではガヤガヤ騒いでいるが、上のほうへ行くと何も聞こえなかった。

4つの事例の建ぺい率はどのくらいか。

- 建ぺい率の詳細は分からないが、どこも広大な敷地のため10パーセントもいかないと思われる。

「イビラブエラ公園」には人がたくさん集まるということだが、日本のショッピングモールのような商業的な施設はあるのか。

商業施設としては、小さなショップしかない。ここはゲートがしっかり管理されており、街中よりも安心して過ごせる。

1階平屋建ては非常にアクセスが良いという話があったが、平屋建てで広い所は移動が大変であり、日本のように狭い所は、ある程度の階層があってエレベーターがあれば、むしろそのほうがアクセスはよいのではないか。広大なスイスの事例だと、平屋というのも選択肢の1つかと思うが、必ずしもこの淵野辺の地域に該当するのかなと感じた。

美しい建物と想像力が広がりそうな建物の写真を見せていただいて、こういう風にできるなら淵野辺駅の南口も色々な想像ができるが、夢物語のような気もする。先生がご存じの中で、淵野辺のような狭い中での現実的な事例も見せていただくことはできるのか。

今回紹介した事例は比較的余白の多いものを選んだが、現実的となると、何かを犠牲にして、何かを活かすということはあるかもしれない。例えば、「武蔵野プレイス」であれば、地下に相当負担をかけている。「イビラブエラ公園」であれば雨漏りがしている。ブラジルの方はあまり気にしないらしいが、何かを犠牲にして何かを得ていくという印象を持っている。お金をかけているのも勿論あるが、そういう制約がアイデアを生むと思っている。何でもできるとなってしまうと実は余分なものができるってしまうこともある。

(2) グループワークについて

第8回市民検討会のグループワークで出された検討案の内容について、それぞれ考え方が近かった委員同士がグループとなり、それぞれの検討案に関するアイデアをより具体化するためのグループワークを行った。

<Aグループ(分散案)>

Aグループは、基本的に現状の配置に近い案で議論したが、現状の配置であっても、三者三様の意見があった。特に、公共施設の活動を明確化するという視点が大きな話であった。

公民館の敷地については、駅に近いという立地を生かし、音の出せる施設を集約して、屋外スペースを活用したイベントを実施するなど、活動的な空間としてより活性化したい。

図書館については、公園と連携して再整備を図るのが良いのではないかと。公園自体は基本的には現状を残していきたいという意見と、先ほどの先生の講演にもあったように、日陰になるようなスペースやくつろげるような空間を整備することは良いのではないかとという意見があった。

大きい点のもう1つが青少年学習センターをどうするかというところで、機能的な意味で意見が分かれていて、借地しているため鹿沼公園に入れるべきだということと、すでに地域に根差した施設であるため、機能を縮小するにしても残すべきではないかというところで議論が残っている。

公園全体としては、今のところ大きく変えるような要望や意見はないが、公園を活かしたまちづくりをしたいという観点から、駅からの動線を強化する、あるいはペDESTリアンデッキを敷くという手法もあるのではという意見があった。

実現に向けた課題としては、財源については重く受け止めた上での意見が色々出ていたが、仮設の話や建て替え用地の話などの具体的な手法は煮詰められてはいない。

<Bグループ(鹿沼公園中心案)>

Bグループは鹿沼公園に公共施設を集約することを基本に議論した。公共施設という視点では、公民館や児童館といった公共施設を一体化、複合化することで異世代の交流が可能になるのではないかという意見、それに伴って共用スペースが全体を通して縮小できるとか、共有することによって現在不足している貸室の問題も少し改善されるのではないかという意見があった。一方で、公民館の部屋数を増やしたいという意見もあり、こういったことも複合化することで解決できるのではないかという意見があった。

運営の効率化という視点では、公民館と児童館の運用の縦割りの問題や、貸室の利用が一部の施設に偏っていることも、複合化という視点で解決できるのではないかという意見があった。

公園については、建物を集約して公園の中に入れることで、その上の階にカフェを入れて都市の中でも公園を見下ろして楽しむような空間ができるのではないか。また、公園の中にコミュニティスペースがあるということが重要ではないか。そういうことで次世代に繋ぐ機能になるのではないか。一方で、現在の公民館の敷地には行政のカウンターやまちづくりセンターの機能ぐらいは残してはどうかという意見や、駐車場がもう少し欲しいという意見があった。

さらに、公園としては災害時の対応や、野球場や水生植物園の周辺の利用率が低いという話があり、今後、外から人を呼ぶ際の国道16号からのアクセスを考慮すると、野球場の周辺や水生植物園が上手く活用できるのではないかという意見があった。また、野球場エリアの利活用ということで、野球場の付近に、高さを抑えた建物を分散して配置したらどうかという意見があった一方で、野球場の付近だと駅から遠くなるので利便性が少し悪くなるという意見があった。

まちづくりの視点では、公園に公共施設を集約すると、駅から公園にどうアクセスするのか。駅からの動線をもう少し公園を意識して整えて、フリーマーケットなどができるような道路にしたらどうか。また、駅前の駐輪場を目指した自転車が危ないので、駐輪場の場所を考えたらどうかという意見があった。

実現に向けた課題としては、公園に造るということで建て替えのための代替地が必要ないことと、跡地の使い方としては、定期借地ということも考えられるのではないか。また、別の考え方として、コストに制限がなければ現在の図書館の敷地を公園の中に取り込んでしまって、今の図書館の敷地に建物を集め

るということもあるのではないかという意見があった。

<Cグループ（図書館敷地中心案）>

Cグループは、図書館敷地に機能を集約することを基本に議論したが、これは一方で現在の公園をある程度守っていきたいということでもあった。

まちづくりについては、公園と図書館を一体的に活用するという意見や、駅から公園までのアクセスが重要であり、歩きやすくとか景観に配慮するという意見があった。さらに、沿道の建物もある程度コントロールして、アクセス路として望ましくない建物は建てないようにするという意見もあった。一方で駅に近い公民館の敷地については、まちづくりセンターや遠くからでも目的が来て来るといった施設を入れてもいいのではないかという意見があった。

公共施設については、公園と図書館を一体的に活用して、機能を集約することで、交流が広がるのではないかと。また、集約されていることで、特定の目的を持って訪れた方にも新たな発見がある、機能を充実させることで目的がない方が来ても楽しめる空間ができるのではないかとという意見があった。運用の効率化ということでは、図書館の書庫は他の場所に設置して管理をしても良いのではないかとという意見があった。

公園については、現在は制約が多い公園ばかりだということで、ある程度広い面積を取って、例えば野球場とかを芝生の広場にして、多目的な活動ができるような場所を造りたい。また、公園へのアクセスということで、現在は出入り口の位置が決まっているが、ある程度様々な方面からアクセスができるようにしたい。ただし、自転車が様々な所から入ってくると危険であるため、自転車と歩行者の動線の整理も重要ではないかとという意見があった。さらに、憩いの場ということで、雨・風・寒さがしのげるような休憩施設も必要だという意見があった。

実現に向けた課題としては、財源の確保という点では、淵野辺だけではなくて市全域で考えるべき問題ではないかとという意見があった。また、運営費、維持管理費という点では、施設の集約や駐車場を有料化することによってコストが削減できるのではないかと。さらに、市民サービスの継続性という点では、現在の公園の駐車場に一度、図書館を造り、その間に現在の位置に図書館を建て替えて、その後、図書館機能を現在の位置に戻す。当初、公園の駐車場に造っていた建物は、他の機能を入れて引き続き利用していくというやり方があるのではないかとという意見があった。

<Dグループ（公民館敷地中心案）>

Dグループは公民館敷地中心という枠組みであったが、公民館に限らずでき

るだけ公共施設を集約して利便性を高めたり、効率的にすることを主なコンセプトとして議論した。まず1つ大きな話として、淵野辺のまちの特性をうまく活かしていきたい、公共施設や公園を活かして、駅から公園まで繋がる立体的なまちづくりを大きなコンセプトに掲げたいという意見があった。施設に着目すると、現在の図書館などの空間に非常に愛着があってそれは残していきたい。どのように残すかなど、やり方に関しては色々あるため、それは今後の課題だという意見があった。

また、国際交流ラウンジがうまく認識されていないため、そこを認識されるようにということと、複合化して上手く活用していくという意見があった。

鹿沼公園の野球場も含めて、人が集まれるような空間を造った方がいいという話や、オープンスペースや図書館の中にワーキングスペースのような人を呼べるような空間があるといいのではないかという意見があった。

実現に向けた課題として、跡地や民間活用については、必ずしも高く売れないのであれば、将来の次世代に引き継ぐ資産として残すという選択肢を考えてもいいのではという意見と、一極集中でランニングコストを減らしていくことや、北口と南口の連携も考えていきたいという意見があった。

(3) 次回のグループワークでの検討に向けた情報提供

公共施設を建替える際の手順と市役所の土地と個人の土地の違いについて

公共施設をその場所で建て替える時は、皆さんが家建て替える時と同様に、仮住まいに引っ越しをして、解体工事の間は他で生活をして、完成してから引っ越ししてくることになるが、これは公共施設も同様と考えてもらうとよい。

また、土地が小さい場合には、小さい建物か細長くて高い建物になってしまう。駐車場については色々なアイデアが出てくるが、例えば、地下にすると工事費が高いが、平置きにすると建物のスペースが狭くなるということになる。

さらに、土地を売る場合も、当然であるが土地が小さければ得られる資金も少なく、得られる資金が少なければ建てられる建物も小さくなる。

我々が所有している土地と市役所が所有している土地の違いは、我々の土地は、売ればその代金が入って納税をして終わりということになるが、市役所の土地を売る場合には売却資金が入り、取得者からは土地の固定資産税や都市計画税、建物が建てばそこから固定資産税や都市計画税が入ってくる。また、建物に企業が入って経済活動が行われれば事業所税や法人市民税が入り、建物に人が住めば個人市民税が入る。このように、市役所の土地はただ売って終わりということではない。ただし、お金が入ればそれでいいのかということではなく、土地は大切な市民の財産であり、どういう目的でどう使っていくのか、目的と課題の折り合いが大事である。

「（仮称）相模原市行財政構造改革プラン」について

相模原市の財政構造として、市民一人当たりの市税収入は約15万円で政令指定都市20市の中で17位という状況であり、収入が少ない分、支出も少なくなるというのが現状である。収入の大きな都市との差を埋めるために税金を値上げすることは考えにくいので、何とかやりくりをしなければならない立場である。今後8年間の財政収支を試算すると、毎年度赤字になってしまう。令和2年度ではマイナス60億円になり、8年間で累計768億円に達する見込みとなっている。

そういった本当に追い詰められた状況では、消防やごみ収集、教育など絶対に欠くことのできないサービスを提供することが困難になるということも想像しないといけないが、そうならないために本プランを策定することになった。

今後、本プランの検討が進めば、パブリックコメントなどを実施する予定である。

これまで市民検討会で色々な検討をしている中で、並行して本プランの策定が進んでおり、仮に結論を出せたとしても財政当局からお金がないために不採用にされる事態は避けたい。これまでの検討は何だったのかということになってしまうため、そうならないためにも実現性のことを考えながら検討をする必要がある。

【有識者協議会委員による講評】

・野口委員

色々と議論していく中で、極論というのではなく、何を犠牲にして何を活かすのか、さらに議論しながら固めていくとよい。全てを実現するというのは大金持ちのすることであり、お金がなければ知恵を絞ってやっていかないといけない。それともう一度確認するが、次世代に引き継ぐということを、改めて心に留めて考えていかなければならない。お金の問題もかなり大きく、財政的に厳しいと言われていることも、改めて真剣に考えてもらいたい。

・鈴木委員

本日は、初めに野口先生の講演で思い切りアクセルを踏んで、最後に相模原市行財政構造改革プランなどの話で思い切りブレーキを踏んだような流れであったが、議論が変な方向にいかないように注意しながら、次回も引き続き考えてもらいたい。

3 その他

(1) 会議録の委員への確認方法について

以前は会議録の暫定版が各委員に送られてきて、ホームページにアップされる前に確認ができたが、最近は案内にも添付されておらず、確認できる機会がない。

ここ数回は毎月市民検討会を実施していたため、作成してから郵送までが実施できない状況であった。今後は工夫しながら対応する。

- 会議録の最終確認は、市民検討会の場で行うということを明確にするべきである。

(2) 今後の予定について

第10回の市民検討会は2月29日土曜日の午前中に開催を予定している事を伝えた。

以上

出 欠 席 名 簿

まちづくりワーキンググループ

氏 名	出欠席
飯田 秀雄	欠席
飯高 千里	欠席
植田 憲司	出席
茅 弘秋	欠席
今 美和子	出席
佐野 玲希	出席
白石 一郎	欠席
畑 耕一	出席
山林 亮太	欠席
渡辺 章	出席

公共施設ワーキンググループ

氏 名	出欠席
安達 和夫	出席
太田 裕	出席
小方 明	出席
小野澤 行雄	欠席
金 愛蓮	出席
佐伯 明美	出席
瀬戸 凌太郎	欠席
高柳 眞木子	欠席
平本 峻	欠席
矢部 裕子	出席

公園ワーキンググループ

氏 名	出欠席
飯沼 容子	欠席
荻野 弓希子	出席
荻原 ますみ	出席
岸本 孝史	欠席
山口 清孝	欠席
城田 大介	出席
狭間 宏明	欠席
北條 幸治	出席
前田 智恵子	出席
山本 有紀	出席

有識者協議会委員

氏 名	出欠席
押田 佳子	欠席
小島 仁志	欠席
小山 憲司	欠席
鈴木 眞理	出席
野口 直人	出席
山口 直也	欠席
山本 匡毅	欠席